

■幸せ実感広め隊で、やりたいことは？

①幸せ実感向上につながるような活動をしている人物や団体取材・紹介し、表彰する（※事務局がイメージしている幸せ広め隊活動「幸せ実感UP最前線！」）

- ・ながくての幸せづくりにつながる活動に取り組む市民やグループの掘り起こし→実践活動の報告。あちこちで多くの取組みをしているように思います。皆（市民）が共有することが大切と思う。→市民の参加を呼び掛ける→つながりづくりから！
- ・モニター制度→モニターの方には、定期的にアンケートや聞き取りを実施、継続的経過をみる。小さな幸せを増やす活動→アンケート結果から読み取れる課題について、（小さなことでも）広め隊が動くことで、少しでも変えられそうなものがあればアクションを起こす。）
- ・幸福度の高い人（若いまちで住みよいまちなので、比較的若い人か？）が周囲を巻き込んで、みんなに幸せを分けており、幸福度の総和が増加しているような活動を見つけて広めたい。
- ・調査をしたものの、まだまだ長久手市内の個別の動きを知らない→市内で活動している人たちの統合的な情報発信の仕組みづくり「フリーペーパー」「つりWeb」づくり
- ・まずはグループ活動を市民に紹介する（広め隊も活動を知る）。また、その活動のキーパーソンとなる人の密着取材（自治会長も含めて、地域のために頑張っている人に対しての）
- ・「身近にいるすごい人表彰式」～みんなで応援、ほめ大会！～→長久手市内で活躍する、おもしろいことをやっている人やがんばっている人や表彰したい人を募集、コンテスト化して、その人を表彰する。
- ・たいようの杜の内にどんぐりの杜があります。そこで生きがい支援として小さい幼児から小学生まで集まっています。サポートする人も多種多様ですが、特に新住民にとっては参考になることが多いと思います。ぜひ一度取材されると新しい発見があると思います。
- ・多くの方の意見を伺いたいです。1人の幸せ（それぞれの幸せ）とみんなの幸せ（市としての幸せ）について考えたいです。

②幸せ実感（地域のつながり）向上につながるような活動のアイデア

【多世代のつながり】

- ・調査では、「つながり」の薄さが課題となった。→地域の子供、学校を媒介とした地区内イベント、食事会の開催
- ・全年齢でできる簡単な遊び（自作のボードゲームとか）
- ・小学生と一緒に理想のまち、未来のまちについて考える。→柔軟な発想から何かまちづくりのヒントを得られそうです。

【あいさつ、ほめる】

- ・温か味のある人間関係。そのためには、声かけ、あいさつなど、気楽に行えるといい。万歩計と一緒にグリーティング・カウンターはどうか。「今日は何人の人とあいさつした」「長久手に来るとみんながあいさつしてくれるね」他人に声をかける人は、自分にゆとりがある（幸せ感のある）人だと思う。
- ・児童、生徒、学生、若い人たちに声をかけ、ほめてやる、認めてやることが年寄りの役目。

【交流イベント】

- ・まちの人々とつながるきっかけがなかった人が、一度出てくることのできる仕掛けづくり。興味ある分野ごとのイベントを企画し、招待状（無料券）を届ける。
- ・新興住宅街などに住んでいる方に参加してもらい、盆踊りなどの夏祭りを行い、多くの方と接して地域の輪を広めたい。

③幸せ実感（エコマネーや福祉、芸術・文化など）向上につながるような活動のアイデア

【まちの美化・エコマネー】

- ・憩いの場所（無料）探索。憩いの場所の美化。利用者に美化の意識を持たせながらも、くつろげる場所にするため、ゴミを拾って利用する人にエコマネーとして還元する。そのエコマネーは市の税金の支払い、または役所で必要なお金として使用できる。もしくは、市の中の温泉施設、文化の家等、インフラ関係の金の使用にする。

【福祉】

- ・福祉に力を入れるにしても、若い方の力や知恵は必要不可欠です。高齢者が集まる場所に若い方を引き入れる工夫、若い方が住みたくなる市にして、活性化を図ると良いと思うのですが。
- ・障害者の働く場所の創出、A型労働者の働く場所（就労継続支援事業A型の事業所）の提供

【芸術・文化】

- ・文化的尺度を向上させ、芸術の香り高いまちにする1つのアイデアとして、長久手に住む美術家（特に若手）の発表の場を市民に身近なところで定期的に設ける。（市民で創る低コストで今までにないスタイルの美術館構想へ）

【居場所、たつせ・生きがい】

- ・地域の人たちと近所でそこへ行けば誰かがいて話したり、何かを作ったり（手芸でも手仕事）ができれば、高齢者の方も生きていてよかった、または何か役に立てる自信をつけたい。
- ・たいようの杜の内にどんぐりの杜があります。そこで生きがい支援として小さい幼児から小学生まで集まっています。サポートする人も多種多様ですが、特に新住民にとっては参考になることが多いと思います。ぜひ一度取材されると新しい発見があると思います。【再掲】

④その他

【幸せのモノサシの先進地視察へ！】

- ・誰もが目にすることのできるツールは何なのでしょうね。そういう情報発信を上手にやっている市町村を見習うというのもいいですね。近場なら社会見学に行きたいです。

【幸せ実感広め隊活動を通じた市民との対話を！】

- ・市民の方と普通に話がしたい。
- ・普段の業務では一方的に意見を言われることが多いので、市民の方と一緒に協力して物事に取り組みたい。（市民と一緒に課題を考えることができる関係を築きたい。）

【幸せ実感アンケート結果の報告や意見交換会を！】

- ・小学校区ごとの特色、地域問題の困りごと調査、・地域での年代別意見交換会、市役所経営企画課+民生委員+連合会+PTA 役員との意見交換会（話し合いができるまちづくり）。小学校区を主とした困りごと、要望等の目安箱を作り、ネットワーク作りがしたい

【その他】

- ・「福祉＝幸せ」イコールでしょうか。たしかに辞書にはそのように書いてありますが、市民は、国民は、その意味だけにとらえていません。福祉という言葉は、公共サービスと公的扶助のニュアンスを含んでいませんか？「福祉のまち長久手」って？